

## エゼキエル書

### 本書の特徴

#### 一 預言の形態

預言書は、異なる時代、状況の中で、イスラエルの民に向けてかたる預言者の活動を記述する。預言者の活動は、神の呼び掛けをその源泉とし、神の呼び掛けをその受託によって成り立つ。

こうした起源の預言職は、各預言者が属する時代解釈をその本質とし、各時代を特徴づける状況を聖書的視点から解釈し、その歴史的背景、それが現在に於ける意味を解き明かす。さらに、未来に向かって展開する歴史の中で、人間が現在においてなすべきことを、聖書的観点から明らかにし、それを勧告、<sup>いかく</sup>威嚇、訓戒、あるいは奨励と言う形で告知する。

#### 預言者「エゼキエル」

彼は、祭司階級出身で、エルサレム祭司団の一員として活動していた。

歴史的視点でみるならば、記述預言者はイスラエル王国と運命を共にし、特に王国の危急時に活発に活動している。

特に、エゼキエルの活動は、南王国ユダの陥落とエルサレム神殿の崩壊という歴史的悲惨の最中に繰り広げられた。

とにかく、流謫の原因を神からの<sup>はいはん</sup>背反とみる彼は、民と政治に対する指導者の責任、流謫にある者、エルサレムの残った者の<sup>おご</sup>驕り、そして民衆を誤った方向に導く偽預言者を厳しく<sup>きゅうだん</sup>糾弾する。

しかも、祭司エゼキエルの最大の<sup>かんしんじ</sup>関心事は、祭儀の腐敗である。それは、エルサレムの神殿における偶像礼拝（8章）、祭儀的清さに対する違反、異邦宗教の礼拝場である聖なる高台での礼拝は、唯一神の礼拝と根本的に対立する。

#### 「人の子」

神から使命を委託され、預言者として活躍するエゼキエルは、「人の子」と<sup>こしやう</sup>おう呼称で特徴づけられる。

しかし、「人の子」という<sup>こしやう</sup>呼称は、歴史の主導者であり、時代を超越する神と、時間的存在としての人間との対比を明確にする。